

# ふるさと奥尻通信

平成29年6月30日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

考古学徒は酒が飲めねば務まらない(らしい)。よく掘り、よく汗をかき、よく飲んだ。そしてよく喰った！今号の仮説はすべて上戸の論理です。下戸の方は是非ご意見を。

## 特集 割られた徳利の謎

奥尻島内で最も有名で重要な遺物(道指定の骨角器や町指定の勾玉など)の発見があった青苗遺跡。ここは縄文時代中期(4000年前)と擦文時代後半(11~12世紀)の遺構と遺物が大量に見つかっている遺跡です。しかし、その一角からはずっと後の時代である、幕末から明治時代にかけて流通した焼酎徳利がまとまって見つかっていました。それらはバラバラに割れていたり、くび(注ぎ口)が折れていたりしたため、復元されて40年間保管されたままになっていました。最近、地酒「奥尻」の人気や、かつての禁酒令時代の様子を調べるうちに、これらの徳利が何らかの意図をもって壊されたのではないかと考えるようになりました。

明治18年(1885)~同23年まで禁酒令下だった奥尻島では酒の密輸が横行し、取り締まりとして高額な罰金が科されていました。受け渡しは海上で行われましたが、竹の皮を被せた徳利を用いたことから「頬被り」(ほっかぶり)の隠語で呼ばれ、船の板子の下に隠して持ち込まれました。密輸酒は土中に隠されていたそうです。しかし、酒気のある者は容易に判別できるため、足が付きました。



昭和30年代の宴会の様子



昭和30年代 青苗港に酒が山積み

その後は石油の空き缶に詰めて持ち込むなど、工作を試みましたが、石油缶もことごとく穴を開けられて再利用できなくされてしまったとのこと。密輸入者の涙ぐましい努力があったことが想像されますね。

以上の事から、現在の青苗遺跡の一角には、かつて密かに持ち込まれた酒の保管場所があり、取り締まりにより発覚して打ち壊された。バラバラの徳利はその結果で、それらが今から約40年前の遺跡調査で偶然発見された、という仮説を立ててみました。

この手の徳利は、現在の新潟市西蒲区巻(まき)や阿賀野市笹神地区などで焼かれた「越後産焼酎徳利」で、日本海沿岸から遠くはサハリン(旧樺太)や千島列島まで流通した焼酎販売用の容器です。遺跡出土の徳利は、茶碗などの日常雑器と混ざって出てくるのが常ですが、青苗遺跡例では徳利だけまとまって出てきたことからして、陶磁器に詳しい松前町の佐藤雄生学芸員は、「禁酒令に関係して投棄された可能性があり興味深い」というコメントを寄せ、信ぴょう性が高まってきております。

以前、「青森県田舎館村には、海がないのにフネがある」という話を聞きました。何のこっちゃ?とっていたら、かつて内陸部の田舎館は密造酒の中心地で、田んぼの真ん中に桶を埋めて造っていたそうです。醸造した酒(もろみ)を搾って酒と酒粕に分離する工程を上槽(じょうそう)と言い、重みをかけて搾り出す機械を槽(ふね)と言いうことから、このように擲掬されたのでしょう。でもたしかに現在でも水田だらけだし、弥生時代の稲作の伝播の北限でもあるし、酒造りには由緒もあって最適か…。人と酒の縁は切りがたいということでしょうか。



青苗遺跡出土の徳利 5点



島内で見つかる越後産の徳利



青苗遺跡の調査風景 昭和51年頃



大正時代から流通した焼酎を入れた瓶(かめ)





今年の賽の河原祭りは悪天候のため、協賛行事である子供相撲大会とステージイベントが中止となってしまいました。毎年、6月22日、23日に開催されるこの祭り、そもそもは明治20年より稲穂岬に祀られた地蔵(お堂中央の古手の2体)の前で法要をしたことに始まります。その後、地区の慰霊行事から次第に島の行事となり、昭和後期からは奥尻三大祭の第1弾の位置づけとなって協賛行事が追加されイベント化しました。不思議と、この時期はいつも曇りや雨が降るなど、スッキリ晴れることは極まれです。写真は平成3年(1991)の相撲大会の様子ですが、珍しく青空が見えています。



学芸員オスマエの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

もういちど読む山川日本史  
五味文彦・鳥海靖

歴史の参考書と言えば山川出版社なのですが、受験生からは日本史は暗記科目なので苦手、さっぱり面白くない、という声が聞こえてきます。がしかし、けして暗記科目ではありません。確かに歴代の徳川将軍をよどみなく述べよと言われれば、よっぽどの歴史好きでないと無理です。けれど、有名な出来事にそって読んでいくと身についてくるのです。

月刊 奥尻のつり 6月号

奥尻島弁天岬でマダイの成魚が釣れたとのビッグニュースが飛び込んできました！早速、特派員を飛ばして情報収集にあたったところ、詳細を得ましたので特報します。6月18日、午後5時頃、奥尻在住の原田敏郎さんがブリ狙いで弁天下でジグを遠投していたところヒットしたもので、全長82cm、8kg、60gのメタルジグ(ピンクと青系)を用いて、周りの人よりも遠投し、概ね50~60m先から探っていたので、ラインは100mは出ている。とても重かったが、青物のような走りはなく、たまたまサケ釣り用の硬いロッドだったので、難なく釣り上げることができたとのこと。これまで、漁師の網やサビキ釣りに幼魚がかかることはあったものの、この手のサイズが釣れたことは極めて珍しいと釣り愛好家たちは口を揃えます。弁天下はますます混み合いそうです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つ1ヶ月 第22回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より  
こたなだ鳥芋家たたてな鳥く七を位て父始る続太  
そ島か。賊をに。くいがれハや伐はにめ俺けい杉  
つをっ行つ喰来ま一。驚た本めっ負たはての山  
け作たっけっただ本。杉い。あたてるけ。拂来がに  
る。てにてら教宛終伐て教るのやがなばうた揃入  
どって今見行鳥母練背つる飛練。でめ父いつ。んっ  
。し日たく賊はを負た度去のお見たはぞ、バだてた  
まはらどつ芋やっ頃になる号父た。仲と俺りるいら  
っ久三しけをっは露。令俺らお々思も、うる何  
つた遠人次迄煮て帰、ボ空時に枝父早っ始お。百  
さ沖よ兄寝ていっ昼夕ま々手をはがいたため父お先本  
ッだりのたいるてだ、だ響伝拂切二。たも父祖と  
今。来声。た。来っ降晴くっうる十老。伐はかな  
日まて。れ。てのの本いおり伐らく

待しまのツこ二減用六二る  
。てす理アレ割で者一六と五  
。由しはの、が六八、五月  
ま津で客や増全一名五フの  
す波はがは加体八のとエ来  
の館な増りとで五増前り島  
でもいえ新なは名加年一者  
、収かた造り前と、度利数  
今益とこ船ま年同航同用に注  
後ア思と利し度比空月者注  
にツわが用た比九機比が目  
期ブレその。で名利で三す

観光客入込数増加!



無事にゴール!!

だ身の館ゴまに天なはたイな  
つ体のとしせ月気く、。トリ六  
たに、しルん明で、雨四マつ月  
よはした地であり日や回ラつ月  
うあした点しはた中強目ソあ行  
でりスめをたほがは風とる事  
すが後、旧。と、暑になが奥と  
。たの多青そん曇い当つ終尻して  
い疲少苗れどつくたた了ムて  
も労狭中で見たらる今し恒  
のしい体もらたいこ大まん例  
たも育、れめのと会しラと

第四回大会無事に閉幕

て番夏と釣魚ス温慢ばス日  
行のがりもツがししとが六  
きかやも道沖キ上まばし続月  
まきつう具にりがしあぶぎた  
し入てすも帰晴つたつをまとい  
よれきぐ片りれたた付たしいう  
う時、北付ままの下のけた。の  
!す海けしせで旬でたに  
張。道よしたんすかすい中  
り島のうの。がらが日旬  
切も短かで磯、は、がま寒  
つ一いな、の 気我しでい

新茶之記録(編集後記)

で例酒が問流その月た。焼禁夕  
、が令訪いさの全三。耐酒し稲穂  
程制かれ合れ日道日世徳令に穂  
よ定らまわたの版付間利がて、ふ  
いさ一しせらうとけのが敷、れ  
酒れ転たのしちし北注展かかあ  
をてし。電くにて海目示れつ研  
美いて、島話、ラ報道はさいて研  
味ま、でや早ジ道新高れい奥修  
しす乾は、見速オさ聞く、また尻セ  
くの杯、学にでれ夕、し頃島ン  
。条禁者もも、刊六 のに

禁酒時代徳利に興味深々



第4回ムーンライトマラソン記念缶バッチ